

令和5年度
小学校高学年教科担任制モデル校
実践事例集

目次

鹿兒島市

- 鹿兒島市立吉野小学校 …… 1
- 鹿兒島市立中山小学校 …… 2
- 鹿兒島市立城南小学校 …… 3
- 鹿兒島市立桜州小学校 …… 4

鹿兒島地区

- いちき串木野市立串木野小学校 …… 5
- 日置市立伊作小学校 …… 6
- いちき串木野市立生福小学校 …… 7
- 日置市立鶴丸小学校 …… 8

南薩地区

- 枕崎市立枕崎小学校 …… 9
- 南九州市立九玉小学校 …… 10
- 指宿市立柳田小学校 …… 11
- 南さつま市立加世田小学校 …… 12

北薩地区

- 出水市立出水小学校 …… 13
- 長島町立城川内小学校 …… 14
- 薩摩川内市立可愛小学校 …… 15
- 阿久根市立脇本小学校 …… 16

始良・伊佐地区

- 霧島市立宮内小学校 …… 17
- 伊佐市立羽月西小学校 …… 18
- 始良市立帖佐小学校 …… 19
- 湧水町立吉松小学校 …… 20

大隅地区

- 鹿屋市立大始良小学校 …… 21
- 曾於市立財部小学校 …… 22
- 垂水市立垂水小学校 …… 23
- 志布志市立伊崎田小学校 …… 24

熊毛地区

- 中種子町立野間小学校 …… 25
- 屋久島町立永田小学校 …… 26
- 西之表市立榕城小学校 …… 27
- 南種子町立中平小学校 …… 28

大島地区

- 伊仙町立馬根小学校 …… 29
- 知名町立知名小学校 …… 30
- 龍郷町立円小学校 …… 31
- 徳之島町立亀津小学校 …… 32



鹿児島市立
吉野小学校

理科
外国語

○ 学校の概要

吉野小学校 学級数 42学級 児童数 1148人 教員数 56人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	5年	15時間	吉野小
外国語	5年	5時間	吉野小

5年生で理科を5クラス計10時間、外国語を5クラス計5時間担当している。(1時間は学級担任が授業する。)

○ 令和5年度の成果

- ・ 学級担任の授業時数減により、教材研究の時間を確保することができた。
- ・ 6学年の教科担任制を本年度から実施したが、担任一人あたりの担当教科が減ったことや担当教科を授業する学年内の職員が減ったことから、より深い教材研究や、教具の共有、指導法の共通理解をすることができた。

○ 令和5年度の課題

- ・ 大規模校であるため、特別教室や他の専科等が担当する時間等の制約がとても大きく、柔軟的な構成が難しかった。
- ・ 学級数が多いことから、学級担任の授業時間数を均等にするための時間割編成に苦慮した。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A(1組担任)	社会・外国語(1・2組)	6年	23時間
B(2組担任)	国語(1・2組)	6年	23時間
C(3組担任)	国語・社会(3・4組)	6年	23時間
D(4組担任)	算数・体育(3・4組)	6年	23時間
E(5組担任)	国語(5・6組)	6年	23時間
F(6組担任)	算数(5・6組)	6年	23時間
G(音楽専科)	音楽	3~6年	18.8時間
H(理科専科)	理科	3・6年	20.6時間
I(特支学級担任)	家庭科	6年	9.6時間

6学年では、ペア学級をつくり、教科時数をできるだけ合わせた形式の教科担任制を実施した。



鹿児島市立
中山小学校

算数

○ 学校の概要

中山小学校 学級数 60学級 児童数 1478人 教員数 88人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5・6年	20時間	中山小

5年生6クラス、6年生6クラスを単元ごとに輪番で週20時間担当している。実際には、担任代理などを務める必要があり、計画通りにいかないことが多かった。

○ 令和5年度の成果

- 算数科を中心とした学力向上対策推進
 - ・ 主体的・対話的で深い学びにつながる「中山セブン」の実践
 - ・ タブレットや学習アプリを活用した学習の推進
 - ・ 個に応じた指導や家庭学習の充実
- 担任の授業時数減及び業務改善
 - ・ 家庭学習の見届けの充実
 - ・ 一人一人に寄り添う生徒指導の充実
 - ・ 児童とふれあう機会が増え、より深くなった児童理解
 - ・ 業務改善への意識の向上
- 中学校進学に向けた教科担任制へのスムーズな移行
 - ・ 担任以外の職員も関わりながらチームで対応する組織づくり
 - ・ 授業者が変わっても学習のきまりを守る習慣の育成

○ 令和5年度の課題

- 学級数が多いため、6年生全ての学級をカバーすることができず、単元ごとに輪番で実施した。
- 小学校専科担当職員は学級担任をしないことから、中学校と同じような専科指導体制にならなかった。
- 休んでいる職員の代替が配置されず、専科担当職員が担任代理を務めざるを得なかった。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	外国語	5・6年	20.6時間
B	音楽	3・6年	21.5時間
C	音楽	4・5年	19.8時間
D	理科	6年	18.6時間
E	理科	5年	18.6時間

英語専科Aが、5・6年の英語を12クラス20.6時間、音楽専科Bが4・6年の音楽を21.5時間、音楽専科Cが3・5年の音楽を19.8時間、理科専科DEが5・6年をそれぞれ18.6時間ずつ担当している。



松原小学校
(兼務校)

鹿児島市立
城南小学校
(本務校)

算数

○ 学校の概要

城南小学校 学級数 14学級 児童数 234人 教員数 21人
松原小学校 学級数 11学級 児童数 221人 教員数 21人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	5時間	城南小
算数	6年	5時間	城南小
算数	6年	5時間	松原小

本務校で5・6年生の算数を1クラスずつ計10時間、兼務校で5年生の算数をそれぞれ1クラス計5時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・これまでの学力分析から定着が低い領域では、学級担任と連携しながら習熟度別学習に取り組み、定着を図ることができた。
- ・担当教科に専念できるため、授業準備やきめ細やかな評価の充実を図り、よりきめ細やかな個別指導を行うことができた。
- ・2校兼務ということで、より幅の広い学力分析・授業分析が行えたことで、授業改善を図ることができた。

○ 令和5年度の課題

- ・在籍校・兼務校の日課表の違いにより、授業時間の調整をほぼ毎日に行わなければならない。教育課程作成の段階から年間を通した授業の見直しを行う必要がある。
- ・在籍校においては、欠席した児童や定着が低い児童への補充指導を実施できるが、兼務校においては、児童の学習状況等を共通理解する時間の確保が十分には行えず、個別に対応する指導ができなかった。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	理科	5・6年	6時間
B	音楽	5・6年	2.8時間

理科専科Aが5・6年生の理科を1クラスずつ計6時間、音楽専科Bが5・6年生の音楽を1クラスずつ計2.8時間担当している。



桜峰小学校
東桜島小学校
(兼務校)

鹿児島市立
桜洲小学校
(本務校)

外国語
家庭科
国語(書写)

○ 学校の概要

桜洲小学校 学級数 7学級 児童数 63人 教員数 11人
 桜峰小学校 学級数 4学級 児童数 25人 教員数 7人
 東桜島小学校 学級数 5学級 児童数 39人 教員数 9人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
外国語	5年	2時間	桜洲小
外国語	6年	2時間	桜洲小
家庭科	5年	1.7時間	桜洲小
家庭科	6年	1.6時間	桜洲小
国語(書写)	5年	1時間	桜洲小
国語(書写)	6年	1時間	桜洲小
外国語	5・6年(複式)	2時間	桜峰小
外国語	5・6年(複式)	2時間	東桜島小

本務校で5, 6年生の外国語を計4時間, 5, 6年生の家庭科を計3.3時間, 5, 6年生の国語(書写)を計2時間, 兼務校で5・6年生(複式)の外国語を各学校2時間, 計4時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 中学校への接続を考慮し, 学習内容の系統を意識した授業を行うことができた。
- ・ 最初の学校で行った授業での気づきを次の学校で生かすことができ, 授業改善に繋げることができた。
- ・ 効果的なコミュニケーション活動についてじっくり検討することができ, ALTや外国人観光客との直接交流やオンライン交流等, より豊かな交流活動を行うことができた。

○ 令和5年度の課題

- ・ 学校間の移動があるため, 授業後の個別指導や課題の見届け等を, その日のうちに十分行えないことがあった。
- ・ ロイロノートを活用する際, 学校ごとにログインし直す必要があり, 学校間でデータを共有することが難しかった。よりよい方法はないか検討する必要がある。
- ・ 外部と交流を行う際は, 各学校の児童の実態に配慮して企画し, 実施する必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	音楽	3・4年(複式)	1.7時間
A	音楽	5・6年	1.4時間
A	社会	3年	2時間
B	理科	4~6年	9時間
C	理科	3年	2.6時間

特別支援学級担任Aが3~6年生の音楽を計3.1時間, 3年生の社会を2時間, 支援学級担任Bが4~6年生の理科を計9時間, 5年担任が3年生の理科を計2.6時間担当している。



いちき串木野市立
串木野小学校

理科

○ 学校の概要

串木野小学校 学級数 26学級 児童数 580人 教員数 35人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	5年	9時間	串木野小
理科	6年	9時間	串木野小

5年生で理科を3クラス計9時間、6年生で理科を3クラス計9時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- 3クラスに対して同じ内容を教えるため、指導法の改善を行いながら授業の充実を図ることができた。
- それぞれの担任が、授業を通して学年の全児童の状況を把握することができ、学力面及び生徒指導面での情報交流ができた。学年経営や学級経営の充実につながっている。
- 学級担任にとって、教材研究、資料作成等の授業準備等の負担軽減につながっている。

○ 令和5年度の課題

- 学級担任が学級の課題等に柔軟に対応したい場合に、時間割調整が難しい面がある。
- 各教科の総時数が異なるため、単純に教科を置き換えるだけでは持ち時数の平準化ができない。時数調整の難しさがある。
- 実施教科に制限があることで、授業を行わない教科の専門性や指導力の向上に課題が残る。また、担任が学級経営とつながりの深い教科(体育等)を実施できないという課題もある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数	教諭	教科	学年	週時数
G	音楽	3・4・5・6	18時間	F	体育(書)	5	9時間
K	算・外	5・3	18時間	H	社会	6	9時間
A	算数	6	15時間	G	外国語(家)	6	9時間
U	社会	5	9時間	M	体育(書)	6	9時間
S	外国語(家)	5	9時間				

高学年担任がそれぞれの教科を9時間担当している。



日置市立
伊作小学校

算数
理科
体育

○ 学校の概要

伊作小学校 学級数 9学級 児童数 187人 教員数 15人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5・6年	10時間	伊作小
理科	5・6年	6時間	伊作小
体育	5年	3時間	伊作小

5・6年の算数を計10時間、理科を計6時間、5年の体育を計3時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 担任は担当教科が減り、教材研究や授業準備に専念できた。
- ・ 担任は時間的に余裕をもって学級事務や生活日記を見る時間、宿題等の丸付け、児童と向き合うことができるようになった。
- ・ 担任の教科の専門性や特技などを生かすことができた。
- ・ 生徒指導面において、学級担任が単独で行っていたことを、教科担任を含めた高学年部で取り組めるようになり、連携が図られた。
- ・ 算数科においては、担任との連携により、少人数指導が充実し、個に応じたきめ細やかな指導ができた。

○ 令和5年度の課題

- ・ 時間割調整のために、教務主任と連携を密にする必要がある。
- ・ 児童の実態把握のために担任と教科担任とが情報共有する時間を確保する必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	外国語	5・6年	4時間
B	音楽	6年	2時間

SET加配が5・6年の外国語を2学年4時間、5年担任Bが6年音楽を2時間、担当している。



照島小学校
市来小学校
(兼務校)

いちき串木野市立
生福小学校
(本務校)

理科

○ 学校の概要

生福小学校 学級数 7学級 児童数 51人 教員数 13人
 照島小学校 学級数 10学級 児童数 161人 教員数 15人
 市来小学校 学級数 13学級 児童数 261人 教員数 19人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	5年	3時間	生福小
理科	6年	3時間	生福小
理科	6年	3時間	照島小
理科	5年	3時間	市来小
理科	5年	3時間	市来小

本務校で5・6年生の理科を1クラスずつ計6時間、兼務校で、5年生の理科を2クラス計6時間、6年生1クラス計3時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 特に理科学習においては、実験や観察の準備、予備実験、片付け等に多くの時間を要するため、教科担任制加配が担当することにより、学級担任の負担が軽減された。
- ・ 各校の実態に合わせて専門的な指導を行うことにより、学力調査等の結果が向上してきた。
- ・ 複数校の指導に当たることにより、各学校の理科担当と情報（植物の生育状況など）を共有したり、実験器具を共有したりすることができた。

○ 令和5年度の課題

- ・ 週数回しか来校せず、授業時数も限られているため児童理解が難しい。
- ・ 実験の準備や生育等について、各学校の理科担当との連携が大切である。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	外国語	5・6年	4時間
B	音楽・道徳	5・6年	2時間
C	体育	5・6年	2時間

SET加配Aが5・6年生の外国語を1クラスずつ計4時間、5年担任Bが5・6年生の音楽と道徳を1クラスずつ計2時間、6年担任Cが5・6年生の体育を1クラスずつ計2時間担当している。



伊作田小学校
湯田小学校
上市来小学校
美山小学校
(兼務校)

日置市立
鶴丸小学校
(本務校)

外国語

○ 学校の概要

鶴丸小学校	学級数	9学級	児童数	163人	教員数	15人
伊作田小学校	学級数	7学級	児童数	53人	教員数	10人
湯田小学校	学級数	11学級	児童数	209人	教員数	16人
上市来小学校	学級数	4学級	児童数	26人	教員数	8人
美山小学校	学級数	5学級	児童数	37人	教員数	8人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
外国語	5・6年	4時間	鶴丸小
外国語	5・6年	4時間	伊作田小
外国語	5・6年	4時間	湯田小
外国語	5・6年	4時間	上市来小
外国語	5・6年	4時間	美山小

本務校及び兼務校で
5・6年生の外国語をそれぞれ1クラス、計4時間ずつ担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 専門性の高い外国語の学習において、外国語専門教員が5・6年生に「聞くこと」、「話すこと」の言語活動を通して、外国語によるコミュニケーションの資質・能力の向上が図られた。また、外国語を苦手と感じる児童も減少し、外国語に親しみを感じ、意欲的に授業に取り組む姿が見られた。
- ・ 担当教員が、中学校区の全小学校を担当することで、指導による学校間の学力差の解消につながった。

○ 令和5年度の課題

- ・ 本務校と兼務校の時間割が違うことで、授業の開始時刻を考えての学校間移動が大変であった。また、行事等の変更による学校間の調整も必要である。
- ・ 中学年の外国語活動と高学年の外国語の授業の在り方や進め方について、連携を図る必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
S	理科	3~6年	3時間
S	図画工作	3~6年	2時間

専科が、3年生から6年生の理科を3時間、図画工作を2時間、担当している。



枕崎市立
枕崎小学校

算数

○ 学校の概要

枕崎小学校 学級数 17学級 児童数 362人 教員数 27人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	枕崎小
算数	6年	10時間	枕崎小

5年生で算数を2クラス計10時間、6年生で算数を2クラス計10時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・教科担任として複数の学級に関わり、学年の実態を把握してよりきめ細かな指導をすることができた。
- ・担任の時数を軽減することで、担任が他教科の教材研究・準備、生徒指導等を行うことができた。
- ・算数の教材研究を深めることで、学習に取り組む姿勢（課題に取り組む姿勢、各教科のものの見方・考え方を生かした課題解決の取組）に高まりがみられつつある。
- ・担当が高学年部に所属することで、児童一人一人の学習状況についての情報交換が密に図れ、指導に生かすことができています。
- ・教科担任として関わることで、児童が学習に向かう積極的な姿勢を養うことができた。
- ・複数の学級を指導することで授業改善ができ、担当教科への意識が高まり、よりよい指導に生かすことができた。

○ 令和5年度の課題

- ・教科横断的な学習を進めるため、教科担任として情報提供し、担任と他教科の学習状況を確認する必要がある。
- ・児童と関わる時間が少ないので児童との関係づくりに課題がある。また、授業のルール（発表の仕方等）が学級ごとに違うこともあり、進めにくい点については、算数の時間のルールを決めて授業を行う必要がある。
- ・算数についての実態を担当もしっかり把握する必要があるため、担任との連携を深め、算数以外の時間にも指導や話題に役立てていく必要がある。
- ・基礎・基本が定着していないので、自分の考えを書くまでに至らない児童がいた。個別に声をかけたりヒントを与えたりするが、授業内だけで力を付けることに課題を感じた。授業外でも基本的な計算等の練習問題に取り組む時間を確保したり、家庭学習を充実させるために担任との連携を密に行う必要がある。
- ・家庭学習の在り方について、担任と連携し現在の授業にあった内容を提供できるようにしていく必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	5・6年	5年(6時間) 6年(3時間)
B	音楽	5・6年	8時間
C	家庭	5・6年	8時間

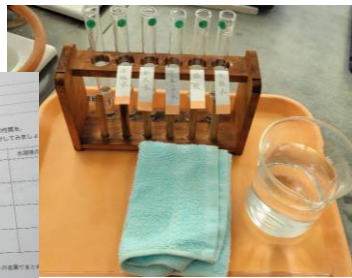
児童支援加配Aが理科を5年2クラス6時間、6年1クラス3時間、音楽専科Bが5・6年の音楽科を4時間、専科非常勤が5・6年の家庭科を4時間担当している。



各校での授業の様子



各校共通の準備物



別府小学校
青戸小学校
粟ヶ窪小学校
(兼務校)

南九州市立
九玉小学校
(本務校)

理科

○ 学校の概要

九玉小学校	学級数	7学級	児童数	56人	教員数	11人
別府小学校	学級数	8学級	児童数	113人	教員数	12人
青戸小学校	学級数	9学級	児童数	69人	教員数	13人
粟ヶ窪小学校	学級数	5学級	児童数	42人	教員数	8人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	5年	3時間	九玉小
理科	6年	3時間	九玉小
理科	6年	3時間	別府小
理科	5年	3時間	青戸小
理科	6年	3時間	粟ヶ窪小

本務校で5年・6年の理科を3時間ずつ計6時間、兼務校3校のうち2校の6年が3時間ずつ、1校の5年が3時間で計15時間担当している。

その他、本務校では、クラブ活動及び教務主任を担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 複式学級担任の一番の授業負担は理科である。教科担任制により、複式学級での同時実験や授業準備が解消され、安全な実験や効率的な準備が確保された。
- ・ 各学校間で、教材研究・教材準備等を統一することができ、効率的な教科運営ができた。
- ・ 教科の専門性を生かした科学へのアプローチや思考の仕方を学ぶことができ、理科好きな児童が増えた。
- ・ 経験豊富でコミュニケーションが得意な職員が各学校を兼務したことで、小小連携の活性化が図られた。
- ・ 小規模・複式校では、校内での交換授業等の調整が図られ、専門性のある授業実践につながった。
- ・ 複式学級で理科を行わない学年は、担任による単式での社会科授業が実施でき、見学や調べ学習等、担任1人で対応し学力も伸びた。

○ 令和5年度の課題

- ・ 複数校兼務により、学校間移動や授業準備の時間をしっかり確保し、移動や実験での安心・安全を守る必要があった。
- ・ 各学校行事や校時変更等を把握し、計画・調整できる力が必要であった。
- ・ 5年理科は、長期観察の単元が多いため、児童への毎日の声かけが必要であり、担任の協力が不可欠であった。
- ・ 各学校でデジタル教科書の教科採用が違うため、学校毎に展開を変える必要があった。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	社会	5年	3時間
A	社会	6年	3時間
B	外国語	5・6年	2時間
C	音楽	4年	2時間

○複式5・6年担任Aが5年理科専科時に6年社会、6年理科専科時に5年社会を3時間ずつ計6時間担当

○特別支援学級担任Bが、複式5・6年外国語を2時間担当

○1年担任Cが、4年音楽を2時間担当



指宿市立
柳田小学校

算数

○ 学校の概要

柳田小学校 学級数 19学級 児童数 382人 教員数 21人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	柳田小
算数	6年	10時間	柳田小

5年生で算数を2クラス計10時間、6年生で算数を2クラス計10時間、合計20時間を担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 専門性のある教員が指導することにより、学習活動が充実した。
- ・ 教師全員で全ての児童を見守る意識が高まり、「チーム柳田」として、教師集団の団結力が高まった。
- ・ 児童の実態や特性について、共通理解が深まった。
- ・ 学級担任の授業時数減により、業務の軽減が図られるとともに、他の学年にも、その効果が波及した。

○ 令和5年度の課題

- ・ 加配教諭と学級担任、担任同士の連携において、3人が同時に動くため、時間の調整や日程の調整などが難しい面があった。出張等での補教計画の調整は複数の学級に及ぶこともあった。
- ・ 年度当初、複数の教員が入れ替わることにより、指導や学習の約束について微妙な差異が生まれ、児童が戸惑うことが見られた。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	書写・図工	4年	3時間
B	書写・図工	4年	3時間
C	音楽	3年	2時間
D	音楽	3年	2時間
E	理科	3~6年	23.2時間

6年生担任A・Bが、4年の書写と図工をそれぞれ3時間ずつ、5年生担任C・Dが、3年の音楽をそれぞれ2時間ずつ担当している。Eは理科専科で3年生以上を担当。



万世小学校
(兼務校)

南さつま市立
加世田小学校
(本務校)

理科

○ 学校の概要

加世田小学校 学級数 30学級 児童数 686人 教員数 43人

万世小学校 学級数 9学級 児童数 171人 教員数 13人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
理科	6年	9時間	加世田小
理科	5年	3時間	万世小
理科	6年	3時間	万世小

本務校で6年生の理科を3クラス計9時間、兼務校で5・6年生の理科をそれぞれ1クラスずつ計6時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 担当教諭の専門性を生かした指導により、理科の学習に興味・関心をもち意欲的に学習に取り組む児童が増えた。
- ・ 既習の内容を生かし、根拠を明らかにして論理的に考え、発表する姿勢が見られた。
- ・ ICT機器を効果的に活用し、学習に対する見通しをもたせることで、課題解決に対する意欲が高まった。
- ・ 学級担任の授業時数の軽減が図られたことにより、授業準備の時間が確保され、教育活動の充実や教師の負担軽減につながった。

○ 令和5年度の課題

- ・ 2校を兼務しており、学校行事や他の専科授業との兼ね合いから時間割の調整が困難である。
- ・ 各学校での情報交換や情報共有の時間の設定が必要である。特に、担当する学年の学習状況や児童への関わり方など、学級担任との連携が必要である。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	5年	9時間
B	音楽	5・6年	12時間
C	外国語	5・6年	18時間

理科専科Aが5年生を3クラス計9時間、音楽専科Bが5・6年の音楽を6クラス計12時間、市で雇用した英語教育講師Cが5・6年の外国語を計18時間担当している。



出水市立
出水小学校

算数

○ 学校の概要

出水小学校 学級数 16学級 児童数 332人 教員数 24人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	10時間	出水小
算数	6年	10時間	出水小

5年生で算数を2クラス計10時間、6年生で算数を2クラス計10時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 複数の学級で授業することにより、児童の実態に合わせて指導方法を日常的に工夫し、指導力の向上が図られた。
- ・ 算数科に特化することで、より深い教材研究を行うことができ、授業を充実させることができた。
- ・ 時数の軽減や授業準備の効率化により、学校教育活動の充実や教師の負担軽減につながることができた。
- ・ 複数の教師が学級の児童に関わることで、一人一人の学習状況や定着の実態を多面的に捉え、学年部全体で共有したことにより、よりきめ細やかな指導につながり、鹿児島学習定着度調査の成果にも表れている。

○ 令和5年度の課題

- ・ 日程や行事の変更に伴う時間割調整を考慮する必要がある。
- ・ 児童は、複数の教師の指導を受けることから、教師間で授業規律、ノート書き方等についての共通理解を一層図り、共通した学習ルールを徹底する必要がある。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科	3~6年	20時間
B	音楽	3~6年	13.2時間

教諭Aが3~6年の理科を7クラス20時間、音楽専科Bが3~6年の音楽を13.2時間担当している。



長島町立
城川内小学校
(本務校)

蔵之元小学校
(兼務校)

算数

○ 学校の概要

城川内小学校 学級数 8学級 児童数 70人 教員数 14人
蔵之元小学校 学級数 7学級 児童数 48人 教員数 11人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	5時間	城川内小
算数	6年	5時間	城川内小
算数	5年	5時間	蔵之元小

本務校で5・6年生の算数を1クラスずつ計10時間、兼務校で5年生の算数を1クラス5時間担当している。

○ 令和5年度の成果

- ・ 昨年度までの経験を生かして授業改善に取り組み、より質の高い授業を実施することができた。
- ・ 専科教員の教材研究の時間が確保され、予習型授業や自由進度学習などの新しい学びの授業にチャレンジしやすく、学力向上につながった。
- ・ 兼務校では、専科教員が算数の授業をしている間に、担任が複式学級の理科を1学年担当することで、複式学習の解消につながった。

○ 令和5年度の課題

- ・ 専科教員と学級担任の間で、予備時数の確保や調整、多角的・多面的な児童理解など十分な連携が必要である。
- ・ 一人一台端末を使用する際、毎回学校ごとにログインし、同じ作業や同じ教具作りをそれぞれ行う必要があった。町の学校全体がつながるように設定すれば、時間短縮につながり、より効率的に授業準備ができると感じた。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	学年	学年	週時数
A	理科	3~6年	11時間
A	音楽	2~6年	8.2時間

専科教員Aが3~6年の理科を11時間、2~6年の音楽を8.2時間担当している。



薩摩川内市立
可愛小学校

算数

○ 学校の概要

可愛小学校 学級数 28学級 児童数 693人 教員数 50人

○ 担当教員の授業時数等

教科	学年	週時数	勤務校
算数	5年	15時間	可愛小
算数	6年	5時間	可愛小

5年生で算数を3クラス(計15時間),6年生で算数を1クラス(計5時間)担当している。(6年生は学期ごとに学級を変更して実施。)

○ 令和5年度の成果

- ・ 教材研究をこれまで以上に深く進めることができ、子供たちは専門性の高い指導を受けることができている。
- ・ 教科担任が、子供たちと副担任のような関わりを行うことで、生徒指導上の課題についても担任が一人で抱え込まなくなり、生徒指導の観点からも効果がある。
- ・ 算数の教材研究やテストの採点、成績処理等の業務が削減されたので、空いた時間を使って、不登校傾向の児童への対応、家庭学習の確認等、他の業務を行っている。
- ・ 計画的に授業を進めること、学年全体の進度をそろえることができる。また、複数回同じ授業を行うことにより、良かった点や反省点を次の授業に生かすこともできる。

○ 令和5年度の課題

- ・ 教科担任制の効果をより高めるためには、職員の専門性を生かした担当教科を設定することが必要である。
- ・ 子供たちの授業の様子など、算数専科と担任とが情報共有を行うための時間確保が課題である。

○ 担当教員以外教科担任の状況

教諭	教科	学年	週時数
A	理科・図工	2・3・4年	21.3時間
B	理科・図工	2・5・6年	20時間
C	音楽	3~6年	18.8時間

理科専科Aが3・4年理科(19.3時間)と2年図工(2時間)で合計21.3時間、理科専科Bが5・6年理科(18時間)と2年図工(2時間)で合計20時間、音楽専科Cが3~6年の音楽を18.8時間担当している。